

令和5年度 都城市立乙房小学校 学校関係者評価

4段階評価(4・・・期待を上回る(100～90%達成) 3・・・概ね達成(90～80%達成) 2・・・期待を下回る(80～60%達成) 1・・・改善を要する(60%以下) ※「-」は、調査していない項目

本校の教育的課題		評価指標 (児童の意識・姿・態度)	職員 の評価	保護者 の評価	児童 の評価	地域の 評価	自己 評価	自己評価コメント(成果○と課題●)	学校関係者 評価	学校関係者評価コメント(成果○と課題●)	次年度に向けた改善策
学力の向上	主体的に学ぶ 態度の育成	学習に対して主体的に 取り組んでいるか。	3.1	-	3.5	-		<p>○ 児童の「学習への主体的な取組」や「学習内容の定着」については、「概ね達成」が9割以上と大変高い。学習への主体的な取組が学力の向上につながる中で、児童が自ら進んで考える活動を中心とした授業の工夫に、今後も取り組んでいきたい。</p> <p>○ 児童の学力の向上には、職員の授業の改善が不可欠である。本年度も、職員全員で指導法改善や授業の振り返り等の授業研究を行って授業改善に取り組んできた。これからも、日々の授業の積極的な改善に努めていきたい。</p> <p>● 職員の「学習内容の定着」についての評価がかなり低い。一方で、児童の評価はかなり高い。これは、児童は、学習したことを「分かったつもり」になっていたり、分かっていても定着していないことがあるためと考えられる。</p> <p>● 「1人1台端末(タブレット)を活用した学ぶ技能の育成」が、職員・保護者・児童ともに昨年度を下回る結果となった。1人1台端末(タブレット)の家庭への持ち帰りの回数や、1人1台端末(タブレット)を使った宿題が少なかったことが結果に表れていると考える。</p> <p>● 家庭学習については、児童の評価は「概ね達成」だが、職員も保護者も評価が2.9と低い結果であった。各学年で示した学習時間の目安(低学年～30分、中学年～45分、高学年～60分)を達成できていない。宿題をしてこない児童が一定数いる。</p> <p>● 読書活動については、保護者の評価がかなり低い結果となった。図書室の貸し出し冊数は年間20,000冊に迫る勢いで、くれよん号(市立移動図書館)の貸出数も多い。学校で読む機会や読書習慣はきちんと身に付けているが、家庭での読書習慣は身に付いていないと言える。</p>	3.2	<p>○ 冬休みに数冊読むことを目標にしてクリアしていた。友達に本の内容を伝えたいようで、友達とのコミュニケーションの1つとなっている。</p> <p>● 読書については、ゲームやスマホ(画像)が、本や雑誌、新聞(文字媒体)より、手取り早く、子どもの興味を引くものが多い。親(保護者)自身が時間に追われ、子どもと一緒に本を読むことが少なくなったのも一因ではないだろうか。</p> <p>● 家庭での読書の機会が増えるという、スマホやタブレット、テレビ等の動画を見る機会が増えると、難しいかもしれない。</p> <p>○ キュビナの活用がすばらしい。間違いを何度もでき、タブレットの使い方も学んでいる。</p> <p>● 1人1台端末(タブレット)の活用と、携帯電話の使い分けが分からない。</p> <p>● 全校児童は1人1台端末(タブレット)を使うことでの電磁波の影響が心配である。</p>	<p>○ 児童一人一人に応じた指導方法についての研究を深め、児童の学力向上につながる授業改善をさらに進めていく。</p> <p>○ 学力の土台となる、読み(音読力)、書き(漢字力)、計算(四則の計算力)を定着させる。</p> <p>○ 児童の「分かったつもり」を防ぐための学習の見届けを確実に行っていく。</p> <p>○ 1人1台端末のタブレット等のICTを活用した授業改善と家庭学習の啓発・充実をさらに推進し、学力に対する児童や保護者の意識を高めていく。</p> <p>○ 「家庭の日(毎月第3日曜日)」に、親子読書タイム(15～20分程度)を設定する。</p> <p>○ 学校だけでなく家庭での読書の習慣化を図る。また、読書の質の向上に取り組み、すべての教科に通じる読解力や表現力を向上させていく。</p>
	当該学年の学習 内容の確実な 定着	学習内容は定着しているか。	2.7	3.2	3.7	-					
		学校は、分かりやすい 授業を行い、一人一人 を伸ばす指導に努めているか。	-	3.0	-	-					
		宿題等の家庭学習に 確実に取り組んでいるか。	2.9	2.9	3.3	-					
	ICTを活用した 学ぶ技能の 育成	1人1台端末を活用する 力が身に付いているか。	3.1	2.6	3.6	-					
読書活動の 推進	読書量の増加、読書活動 の意欲向上が図られたか。	3.2	2.2	3.3	-						
豊かな心の 醸成	自他の命を大切に する態度の 育成	学校へ登校することが 楽しいか。	-	3.4	3.2	-	<p>○ 命を大切にする態度やよきまを守ること、友達と仲良くすることについては、児童・保護者とも自己評価は高かった。今後も常時指導を継続し、児童の豊かな心の醸成を目指したい。</p> <p>● 学校へ登校することが楽しくないと回答した児童が17%いた。その原因をしっかりと明らかにしていく必要がある。毎月実施している児童へのアンケート等の継続により、児童の望ましい人間関係の醸成や早期の悩み解消に努めていきたい。また、本年度は保護者向けアンケートも実施し、情報収集することができた。次年度も継続して、早期発見・早期解決につなげていきたい。</p> <p>● 気持ちのよいあいさつについては、児童の自己評価は高いが、職員や保護者の評価は低い。保護者や地域からは、学校であいさつはしているが、学校外や地域でのあいさつがもう少しと感じているようである。また、あいさつをされたときにあいさつを返すことができていないこともある。今後は、児童に具体的な場面を示して常時指導を継続していく必要がある。</p>	3.5	<p>○ あいさつについては、知らない人に声をかけられてもついていけないように指導されているので、自分から声掛けすることをためらっている児童もいるようだ。</p> <p>● あいさつについては、毎年の課題ではあるが、まずは、親がして見せないといけないと思う。</p> <p>○ 児童は楽しく登校している。障がいのある児童にも優しく接している。</p> <p>● 一見すると仲が良く見えるが、実際はどうなのかなと思う。</p> <p>● SNSやいじめ等の問題が出てくる可能性があり、心配である。</p> <p>● SNSやゲームなど、ネット環境でのやりとりをする場面が増え、それに伴い、直接的なコミュニケーションが減っている。もっと顔を合わせたコミュニケーションを大切にしてほしい。</p>	<p>○ あいさつやよきまを守るとの基本的な生活習慣について、定期的に自分自身を振り返らせ、自分で改善していこうとする児童の育成に努める。児童の自主的な活動の啓発を図ることで意識をさらに高め、習慣化につなげていく。児童会を生かしたあいさつ運動に取り組む。</p> <p>○ 定期的なアンケートや観察等を実施し、常に複数の目で児童の様子について情報交換を行い、「学校が楽しい」と感じる児童を100%に近づける。</p>	
		児童の安全に対する意識 や態度が身に付いているか。	3.0	3.5	3.8	3.1					
	基本的な生活 習慣の定着	自分から気持ちのよい 挨拶をしているか。	2.8	2.9	3.6	3.4					
		校内外のよきまを守ろう とする態度が身に付いたか。	3.1	3.2	3.6	3.4					
	望ましい人間 関係の醸成	自分や友達のことを大切 にし、仲良く過ごしているか。	3.1	3.5	3.8	3.8					
勤労奉仕の 精神の向上	学校は、子どもたち一人 一人の「よさ」や「がんばり」 を、認めたりほめたりしているか。	-	3.1	-	-						
	自分から進んで係活動 や委員会活動など、学 級や学校のためになる ことをしているか。	3.3	-	3.7	-						
	自分から進んで家の手 伝いをしているか。	-	-	3.2	-						

体力の向上	安定した生活リズムの形成	早起き、早寝が習慣化されているか。	—	3.2	3.4	—	3	<p>○ 生活リズムの早起きや早寝については、8割以上が肯定的な回答をした。児童・保護者・職員とも、ほぼ習慣化できていると回答している。早起きと早寝について、まだ習慣化していない児童もいるので、定期的な保健指導の徹底も必要と考える。</p> <p>○ 手洗いやうがいなどの保健衛生習慣については、児童の意識は高いが、職員の評価は低い。コロナ禍以前よりもやや意識が低くなったが、習慣化できている。</p> <p>● 体力向上については、校舎新增改築工事で運動場が約半分しか使えない状態が続いていることもあり、体力向上につなげられていない。</p> <p>● ゲームやスマートフォンを夜遅くまでしている児童が一定数いる。次の日の体調に影響したりトラブルのもとになったりすることもあるので、学校保健委員会や参観日の懇談など、使い方について考え実践できる機会を設けていきたい。</p>	3.0	<p>○ 運動場が以前のように広く、利用できようになれば、気分的にも解放され、運動能力も増進すると思われる。</p> <p>○ 家庭で、冬休み中も時間割を作り、起床時間、勉強時間、遊び時間を守っていた。</p> <p>● 児童の寝る時間は遅くなっているように思う。</p> <p>● 朝の登校の様子を見ると、元気な児童とそうでない児童と、はっきりしている気がする。</p> <p>● コロナや新校舎建て替えて仕方がないところではあるが、外で五感を刺激して遊ぶ姿が減った。</p> <p>● オンラインゲーム等で遅くまで起きているのではないかと思う。</p>	<p>○ ゲームやスマホ、SNS等の実態を把握し、保健指導を学年に応じた実施して健康について考えさせる機会を設け、児童や保護者の意識改革を図り、実践化を図る。</p> <p>○ 家庭でのゲームやスマホ等の使い方やルール作りを行うように啓発する。</p> <p>○ 運動場改修後は、体育や遊びによる運動場や体育館の積極的な活用を実施する。また、家庭と連携した体力アップの取組を引き続き実践し、体力向上を図る。</p>
	保健衛生習慣の定着と健康や安全に対する実践的な態度の育成	手洗いやうがいなどの保健衛生習慣が身に付いたか。	2.9	3.0	3.8	—					
	体力の向上	体力向上プランをもとにした取組により、児童の体力の向上が図られたか。	2.7	3.1	3.5	—					
ふ開かされた教学校育の推進	積極的な学校の情報発信と相談体制の充実	参観日の懇談や学級通信、学校通信、ホームページで、学校や学級の様子を発信できているか。	3.5	3.5	—	3.7	3	<p>○ 学校通信を保護者や地域に配付したり、ホームページを毎日更新したりして、保護者や地域の方へ、学校や学級の児童の様子を伝えることができた。</p> <p>○ 保護者からの相談や、地域の方からの依頼や相談への対応も高い評価をいただいた。今後も誠意ある対応に努めたい。</p> <p>○ スクールガードの方をはじめ、児童の安全に関わっていただいていことに大変感謝している。</p> <p>○ 地域の祭りやイベント等への児童の参加も増え、ふるさとについて考える機会ができてありがたい。</p> <p>○ 昨年度まで3年間できなかった「乙房ふれ愛祭り」を再開できた。また、キャリア教育座談会も新たに実施することができ、地域人材を活用した学習を進めることができた。今後も地域人材や素材を活用した学習の推進により、ふるさとのよさを感じ、ふるさとを愛する心情を育てることを目指していきたい。</p> <p>● 学校に相談しにくい保護者が17%いる。保護者への対応について振り返り、誠意をもって対応していきたい。</p>	3.3	<p>○ 借家の方はまだしも、持ち家の方は、公民館に加入して、児童に、協同生活の大切さを家庭で考えてほしい。</p> <p>○ 小学校からの便りで、学校全体の様子がうかがえる。</p> <p>○ ふれ愛祭りの再開で、地域人材の多さに驚いた。発見のあるふれ愛祭りだった。</p> <p>○ ふれ愛祭りで、キャリア教育を実施したのは良かった。</p> <p>● 学校も親も、もっとスクールガードさんに感謝すべきである。スクールガードさんがどれだけ子どものために動いてくれているか、発信してはどうか。</p> <p>● ホームページはなかなか見ることができていない。</p> <p>● 学校に相談しにくい人は、保護者にも何かあるのかもしれない。</p> <p>● PTA活動について、なかなか理解が得られず、自分たちの都合の優先が目立つ気がする。</p> <p>● 親の都合が子どもの都合になり、学校に対する気持ちはどうなのかなと感じる。</p>	<p>○ 今後も、学校の様子を積極的に発信し、保護者や地域の方に知ってもらうことで、学校・地域・保護者が連携して児童を育成する体制づくりを目指す。</p> <p>○ 学校が常に相談しやすい場であるように、積極的な情報発信や誠意ある対応をしていく。</p> <p>○ 学校の学習や行事について、保護者や地域の方に協力を仰いで、ふるさと教育の推進していく。</p>
		学校や担任は、保護者からの相談に誠意をもって対応しているか。	3.6	3.2	—	—					
		学校は、お子様のことを相談しやすいか。	—	3.1	—	—					
		学校は、地域からの依頼や相談に誠意をもって対応しているか。	3.5	—	—	3.4					
	ふるさと教育の推進	地域人材や素材を活用した学習を通して、ふるさとのよさを感じ、ふるさとを愛する心情が育っているか。	3.4	3.4	—	3.4					
	児童は、地域の行事に参加しているか。	—	—	—	3.5						
児童の安全に関する連携	学校・家庭・地域が連携して児童の安全を守っているか。	3.4	3.5	—	3.4						